



Title	ヨーロッパ：欧州公衆衛生視察団に参加して
Author(s)	松尾, 倅二
Citation	大阪公衆衛生. 1971, 27, p. 23-27
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84308
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

ヨーロッパ

— 欧州公衆衛生視察団に参加して —

松 尾 倖 二

はじめに

昭和45年度秋期欧州公衆衛生視察団20名の一員として、9月12日午前11時50分、小雨降る羽田空港をSAS航空機でタイ国のバンコックへと離陸して、37日間に12ヵ国をたずねる強行の旅ではあったが、アンカレッジをへて10月19日午前0時5分全員無事帰着したのである。

欧州各国の衛生局施設病院など11ヵ所を訪問し、現実に見聞して、私なりに感銘をうけたのは、やはり充実した社会保障であり医療保障である。かぎられた紙面に私の印象にのこるものを報告いたします。

MANILA 上空の虹

マニラ空港をとびたちまもなく雲海のかなたに異国の虹を見る。この美しさに、緊張していた私の心は、和らげられたようである。南ベトナム上空からメコン河を眼下に夕闇のバンコック空港に着陸する。仏教王国の首都には有名な Wat. Arun, Wat. Pra. Kaew の寺院があり、色彩ゆたかで美しく、またその荘厳さに心をうたれる。

Floating Market を視察したが、近代都市バンコックの裏側をみたような気がする。市内には日本の有名な各社の広告が多く、日本のどこかの都市に來ているようである。

KÖBENHAVN

バンコックからソ連のタシケントを経て9,600km、約12時間である。空港の通路のベンチで若き男女がだきあって、われわれがその前をゆっくり歩いても、はなれようとしなかった。国民性の相違であろう。

肢体不自由児施設を視察したが、デンマークでは肢体不自由児は家庭で面倒をみるのが原則であり、収容される者は重症患者か経済的理由によるものである。



(オスロー：ビーゲラン彫刻公園)

幼児用施設は、20年前に結核患者がなくなり？ その療養所をゆずりうけ、1952年に設立され現在36名収容されている。結核予防に全力をあげているわれわれには事実とすればうらやましい事である。学童用施設は別の場所にあり、広大な芝生の庭に1955年に建てられた近代的設備を持つ施設である。患者は130名収容されているが、10人位でホームを作り、親がわりの女性2人が管理者として面倒をみている。

ホームは子供部屋、居間、台所がある。子供たちは、電気歩行椅子でエレベーターを自由に昇降できるようになっている。1日1人当たり約190クローネ（9,500円）の国庫負担があるが、人件費や施設の維持費を含むものとみられる。昨年より男67才、女62才から財産のあるなしに関係せずに1ヵ月800クローネ（約4万円）支給される。コペンの職人で一週間42時間働いて約700クローネ（約3～4万円）の収入がある。収入の20～40%まで税金にとられるそうである。福祉国家で中年以上の自殺者が多くなっているともいわれる。原因については説明を聞くことができなかった。

精神病院も見学したが、重症アルコール中毒患者が多く、麻薬は最近問題となりつつあるとのことである。

OSLO の公害

バイキング王ハラルドが1050年に創立した歴史のあるオスローであり、すみきった青い空の下、緑と花の美しい街である。衛生局を訪問して、この美しい北欧のオスローにも公害があることを知らされる。1960年頃より、燃料としての石油の規制が問題となり、SO₂ 1.2%以下の石油が許可されるようになった。オスロー湾の汚染についても重大な問題になってきているとのことである。

国立公衆衛生教育センターで説明を聞いたが、1956年に国保100%加入が国会で議決されており、公衆衛生に従事する医師は公務員であり開業医でもある。薬局は許可制であり、売りあげの一部を保健基金に提出

させ、人口のすくない地区での経営困難な薬局へ回される。

ノルウエーの衛生行政活動は、自由経済的な面と社会主義的な面との中間的混合的な面をもっているようである。保健婦の活動の中にレストラン等の食品衛生監視業務がある。

国際保健会議 (Edinburgh にて)

英国で最初におとずれたスコットランド最大の工業都市グラスゴーからバスで約2時間で古都エジンバラに着く。中央の丘の上にスコットランド王の居城であった Edinburgh Castle が16世紀の姿をいまにつたえている。市内は山水の美と人工の美が調和して静かな都市である。会議は9月21日より25日まで市内の Assbly Rooms And Music Hall で開催され、最初の2日間だけしか出席できなかったが、全議題を報告します。

1. Nutrition for the young and old
2. Dental health
3. Container of imported food
4. Food sophistication



(ロンドンの街角にて)



(The Royal Society of Health)



(アムステルダム：小児保健相談所)

5. Noise reduction
6. The international incidence of venereal diseases
7. Food hygiene and catering
8. Population control

LONDON

霧の都、沈んだ灰色の街を想像していたが、初めて街角に立った時、あかるい活気のあるロンドンの姿を直感的に知り得たような気がした。1894年にテムズ河に建設された Tower Bridge の下で魚がつかれるようになり、霧がなくなりつつあり、世界で最も美しい大都市になる日も近いという。ロンドンからバスで北へ約1時間の New Town Stevenage を視察して、その言葉が事実であることを知る。大都会から人を引きぬいて町をつくり、公害のない工場を建設し、その町に住み、その工場で働くのである。

英国で現在27の New Town の建設がすすめられ、人間を公害から守り、快適な生活を何よりも優先するために努力しているのを現実に見て、特に感心させられた。ウェストミンスター寺院、ロンドン塔をたずね英国の歴史を知る。

AMSTERDAM

衛生局をたずね説明を聞いたが、平均寿命は男性73



(ワテルローにて)

才女性75才となり、寿命が長くなるにつれ癌の問題がクローズアップされてきているようである。未婚の母親の問題には特殊なチームを作り、母と子供の問題解決につとめており、年間30件ぐらいである。乳幼児の精神心理は4才までに問題の解決に努力している。

WATTERO (BELGIUM)

休日を利用して同行8人で早朝ホテルを出発。アムステルダム駅よりパリ行きの列車にのり、ベルギーの首都ブルッセル駅で降りかえてワテルローで下車、駅前に1台しかないタクシーはトヨベット・クラウンであるのに驚きながらナポレオンの古戦場までこの車にのる。

アムステルダムからワテルローまで約5時間の旅である。

DORTMUND

人口70万人の工業都市である。市衛生局では公衆衛生遂行上二つの問題点があり、第一は予防、特に心臓病、癌について事業を行なっているが、それ程進んでいない。開業医と当局との共同作業がより必要である。第二は公衆衛生関係の医師が非常にすくないので仕事の殆どしかみたまされていらないとのことである。市長がわれわれを昼食会に招待し、市のマークのついたジョッキをいただき、ドイツの人たちの好意はわすれることはできない。

FRANKFURT AM MAIN

焼却場を見学したが、ゴミ処理熱を利用してすぐ近くの新しい団地の地域暖房をしているのに感心させられた。不燃焼物を埋める場合は地下水を汚染するのできびしい法律があり、欧州では日本のような公害問題はないようである。

MADRID

緑の多い整備されたあかるい美しい首都である。プラド美術館にベラスケスが1174年にえがいた王女と侍女たちの立体画を見る世界で唯一とつのものである。市内の闘牛場は日本の野球場と同じようで、約3万人は収容できる。入場してまず眼につくのは日本の時計会社の広告である。ピカドール、チュロー、マタドールと出場するが、私には残酷なものとしか受けとれなかった。有名なマタドールはスペインでは英雄である。

ホテルの夕食時に旅のつかれをいやしてくれた情熱的なフラメンコギター（男性）とダンス（女性）はわ



(スペイン国立病原微生物センターにて：Dr. ヘレン（写真右）とともに）

するることのできない思い出である。

マドリードより古都トレドの途中に、2年前に建設された国立病原微生物センターがあり、電子顕微鏡による検査を担当している Dr. ヘレン（女性）は、5年前阪大微研に留学して帰国後に教授となっている人である。彼女に日本語で案内していただきパーティーを開催してもてなして下さった好意はわすれることはできない。

PARIS

マドリードより空路1時間20分でパリに着き、秋雨にけむる市内を観光する。ルーブル美術館を短時間ではあるが、見学して芸術の宝庫であることを知る。ナポレオンの時代から悲劇的な革命時代をへて現代にいたる歴史をつたえるセーヌ河畔のノートルダム寺院、エトワール広場の凱旋門、モンマルトルの丘に建つサクレール寺院などに強く心をひきつけられる。マロニエの並木の美しいシャンゼリゼのブロムナードのテラスで食事をしたり、「ムーラン・ルージュ」のショーをたのしみ、夜の地下鉄にのり前世紀的な車体の古さにおどろき、パリーの休日をすごしました。

SR 721 便にてジュネーブに着く。WHOを訪れ、山本技官より説明を聞く。重要な課題として環境衛生、母子衛生のうち特に先天性疾患児の出産防止に力をいれていることを知る。昼食後屋上にでる。厚生省の前公害課長の橋本先生にお逢いする。会議のためフランスからこられたとかで時間がなくお別れしたのは残念であった。

ZERMATT

昨日から降りつく雨の中をホテルからジュネーブ駅まで歩く。プラットホームの時計を見ると7時15分であり、他の時計は6時40分でどちらも正しい時間ではないのおどろく。Brigue 行きの列車は正確に7時

9分に発車して、美しいジュネーブ湖を右に見て進行する。Brigue から登山電車にのりアルプス登山の根拠地である ZERMATT に着く。

ホテルのルームから、もやの晴れ間にマッターホルンの鋭峰をみる。翌朝、登山電車にのり3,136mの高地にある Gornergrat に着きアルプスの新雪をふむ。駅の近くのホテルは10月から閉鎖されている。この登山電車の中から約40分間、右に左にアルプスの大自然の絶景を満喫できたのは生涯わすれることはできない。

永遠の都 ROMA

ミラノから空路約50分である。空港で急にアリタリヤ航空のストを知らされ、ミラノ中央駅から17時55分発ローマ行きの満員の列車にのり、翌日の0時30分ローマに着くまで飲食物はなく苦痛であった。ホテルには1時30分に着く。ローマは紀元前753年に狼に育てられて成人した双生児の1人、英雄ロムルスにより建国されたといわれる。パラチーノの丘に残在する Foro. Romano は、古代ローマの政治宗教商業の中心地の遺跡であり、ここを中心にイタリア各地の距離がしるされている。道路にきざみこまれた「S.P.Q.R.」は世界の文明文化の発生地を示している。コロッセ・オカラカラ浴場跡を見て古代ローマの偉大さを知る。

ローマ周辺に約50におよぶ Catacombe があり、アッピア旧街道の近くにある地下墓地を見る。キリスト教徒が弾圧された時代に信徒の墓に、また礼拝堂に地下に4〜5層に掘られ、長さ17kmにおよぶものである。サンピエトロ大寺院は、ネロ皇帝の競技場であった場所に319年に教会が完成し、15世紀中頃より200年近い年月をかけ改築され、1626年に完成され、ミケランジェロの設計による大ドームは見事である。

ここに独立国であるバチカン市国があり、入口にスイスの衛兵がたっている。トレヴィの泉にコインを投げわすれ、再びローマを訪ねる日がないのだろうか。ローマ空港で午後8時40分発のOS 272 便はウィーンに濃霧のため着陸できないのでミュンヘンに着陸すると聞かされる。午後10時すぎアルプスの山をこえ、上空の満月は美しい。午前0時すぎミュンヘン空港からバスでウィーンへ出発する。午前2時国境を通過し、6時30分にウィーンに着く。ウィーンの森はすでに晩秋で枯葉が散っていた。

最後は PRAGUE

共産圏のチェコスロバキアの首都プラハは最後の視

察地である。人口 116 万人の都市であり街全体がくらい感じである。長途の旅で心身ともに疲労していたので、そのように感じたのかも知れない。プラハ心臓血管研究所をたずねたが、設備はそれほどではなかったようである。帰国のためプラハ空港からコペン空港に着き、午前10時40分に羽田空港に向け離陸する予定が、午後11時10分ときまるまで空港内で12時間またされる。

コペンをとび立ち、アンカレッジをへて羽田までの夜を追っての16時間ももの長い間、機上の人となったが、千葉上空で美しいネオンの灯を見た時は疲労はどこかに行ってしまったようである。

公害先進国

経済の急激な成長と人口の都市集中により、日本の

公害は激増し、環境にまつわる諸問題は深刻化し、日本は世界の公害先進国となる。この汚名は '70 年代に返上して世界で最も美しい四季の花咲く日本を実現すべきである。環境庁が設置されたが、国民も協力して文化的な健康生活を確保するために最大の努力すべき時期である。社会福祉国家の実現にも調和のとれた経済の発展をはかるべきである。

「泉南の海は可愛想だ!!」 鹿児島出身の紡織工場に つとめる若い女子従業員にいわれた言葉が胸につきささる。公衆衛生の末端に従事する私は、管内の人々と協力して泉南の緑とすみきった青い空、そして美しい海をとりもどしたいと念願する。

(大阪府尾崎保健所長)

環境衛生の水準を世界的に!!

昭和45年4月法律第20号
「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」の
施行に伴い、右記の室内衛生環境の調査、測定の業務
を開始しています。ご利用
下さい。(案内書送ります)

●空気環境の調整の調査

室内浮遊粉じんの量、一酸化炭素の含有率
炭酸ガスの含有率、温度、相対湿度、気流

●給排水の維持管理の調査

残留塩素量、汚水検査

●室内照度、落下細菌等

その他、ネズミ、衛生害虫防除と殺菌消毒

財団法人

大阪防疫協会

(府庁分館内)

理事長 辻 野 直 三 郎

中 央 出 張 所

電 話 (06) 7 2 2 - 1 2 1 4 番